

対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度 環境活動レポート

作成 2016年10月6日

<p>微粒子技術で“新しい可能性の共創”</p>  <p>アシザワ・ファインテック株式会社</p> <p>〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2 TEL.047-453-8111(代) FAX.047-453-8378</p>	承認	確認	作成
	芦澤代表取締役社長	島田専務執行役員	高澤 EA21 委員会委員長

アシザワ・ファインテック株式会社 環境活動レポート

2016年11月15日

1. 事業活動の概要

1) 事業社名及び代表者名

アシザワ・ファインテック株式会社
代表取締役社長 芦澤 直太郎

2) 所在地

- ・本社工場 〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2
- ・大阪支店 〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町 6-2-1
- ・微粒子技術研究所※ 〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷 2-1-4

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

管理責任者 専務執行役員 島田 浩行
事務局 人事総務課リーダー 堺 信幸
EA21 委員会委員長 メンテナンス課課長代理 高澤 賢介
連絡先 人事総務課リーダー 堺 信幸
TEL : 047-453-8115 FAX : 047-453-8378

4) 事業内容

分散機・微粉碎機・混合機・混練機・押出機的设计、開発、製造及び受託加工

5) 事業の規模（環境への負荷の自己チェック 1.事業規模 より転記）

活動規模	単位	2014年度	2015年度
売上高	百万円	2,130.0	1,873.8
従業員	人	126(内大阪支店：6人、微研：4人)	130(内大阪支店：6人、微研：4人)

6) 事業年度

2015年度

2015年4月1日～2016年3月31日

7) その他

- ・九都県市のきらりと光る産業技術 表彰
- ・平成27年度 EA21 認証・登録10年継続記念

2. 対象範囲

認証・登録番号：0000025

認証・登録年月日：2004年11月15日

認証・登録事業者名：アシザワ・ファインテック株式会社

対象事業所名：本社工場、大阪支店、微粒子技術研究所

所在地：千葉県習志野市茜浜 1-4-2

事業活動内容：分散機・微粉碎器・混合機・混練機・押出機的设计、開発、製造及び受託加工

3. 環境方針

行動指針

当社は、微粉碎・分散技術のプロ集団として、環境との共生・調和への取組みを最重要課題として以下の環境保全活動を推進します。

1. 微粉碎機・分散機の製造販売の全事業活動において、JISQ9001：2008に合致する品質方針に基づき業務を遂行し、省資源・省エネルギー・資源環境・エコライフなどに配慮した製品を提供します。
2. 環境保全に関する法規則を遵守することはもとより、可能な範囲で自主基準を制定し一層の環境保全に取り組めます。
3. 環境汚染を未然に防止すると共に、保全活動を推進するため、環境経営システムを構築し、全ての組織で運営し、継続的に改善向上を図ります。
4. 事業活動の中で、特に以下の項目について重点的なテーマとして保全活動を推進し、環境目標を設定し、必要あれば目標を見直すなどの効果的な取組みを行います。
 - (1) 「環境への負荷チェック」の結果、事業活動の中で特に、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量について環境負荷低減の改善目標値を設けて目標管理します。
 - (2) 化学物質使用量は適正に管理していることを定期的に確認します。
 - (3) グリーン購入は、環境負荷の少ない備品・設備を優先的に購入するよう随時検討します。
 - (4) 廃棄物量削減のために適切な分別を推進し、再資源化に協力的な収集業者に処理を依頼します。
 - (5) コピー用紙の両面使用の強化と共に、IT 業務化によるペーパーレス活動に努めます。
 - (6) 製品ならびにサービスの環境配慮については、省エネかつ廃棄物の少ない、環境に配慮した部品や工法の採用を推進します。
 - (7) 緑化協定を遵守し、保守整備を計画的に実施し、地球温暖化抑制運動の推進に努めます。
5. 周辺地域の環境を維持するために、環境行政機関・団体などの環境保全活動に協力すると共に周辺の整備・清掃等の地域社会の行事に積極的に参加し社会貢献に努めます。
6. 環境教育と社内広報活動を実施し、全社員に環境方針を周知徹底すると共に、取引先にも環境方針を周知し社内外において環境保全活動の知識・認識の向上に努めます。

—この環境方針は、社内外に公表します—

2004年1月5日 制定

2015年3月18日 改訂

アシザワ・ファインテック株式会社

代表取締役社長 芦澤 直太郎

4. 環境目標と実績

4-1 2015年度目標と実績

(1) 二酸化炭素		2014実績 [t-Co2]	2015見込み [t-Co2]	2015目標値 [t-Co2]	2015実績 [t-Co2]	2015評価	2016目標 [t-Co2]
本 社	購入動力	204.5	196.2	193.6	181.1	○	191.9
	化石燃料	55.5	53.7	47.4	54.0	×	47.7
	二酸化炭素小計	260.1	249.9	241.0	235.1	○	236.4
大阪	二酸化炭素小計	19.2	-	19.2	17.5	○	17.5
栃木	二酸化炭素小計	5.5	-	5.5	6.4	×	6.4

(2) 廃棄物等総排出量		2014実績 [t]	2015見込み [t]	2015目標値 [t]	2015実績 [t]	2015評価	2016目標 [t]
本 社		42.6	43.4	40.4	37.3	○	48.5
大阪		0.46	-	0.46	0.36	○	0.36
栃木		1.03	-	1.03	0.70	○	0.70

(3) 水使用量		2014実績 [m3]	2015見込み [m3]	2015目標値 [m3]	2015実績 [m3]	2015評価	2016目標
本 社		2,179.0	2,261.0	2174.0	2,030.5	○	2,095.0
大阪		52.0	-	52.0	48.0	○	48.0
栃木		108.0	-	108.0	98.0	○	98.0

(4) 化学物質使用量		2014実績 [L]	2015見込み [L]	2015目標値 [L]	2015実績 [L]	2015評価	2016目標 [L]
本 社		11,939.6	-	-	18,670.3	○※1	-
	PRTR対象	589.4	-	-	468.8	○※1	-
大阪		-	-	-	-	-	-
栃木		-	-	-	55.7	○※1	-
					3.0	○※1	-

(5) グリーン購入		2014実績 [件]	2015見込み [件]	2015目標値 [件]	2015実績 [件]	2015評価	2016目標 [件]
本 社		1	-	-	4	○※2	-
大阪		0	-	-	1	○※2	-
栃木		0	-	-	0	×	-

(6) 環境配慮製品		2014実績 [件]	2015見込み [件]	2015目標値 [件]	2015実績 [件]	2015評価	2016目標 [件]
本 社		1	-	-	12	△※3	-
大阪		0	-	-	1	△※3	-
栃木		0	-	-	1	△※3	-

電力のCO₂換算値： 0.530 kg-CO₂/kwh

(1) 二酸化炭素排出量

結果：目標は見込排出量から 3.56%の削減で、結果は 2.45%の削減となった。

考察：購入動力による CO2 の減少は昨年度と比較して試作、受託件数の減少が要因として考えられる。(外的要因)

化石燃料による CO2 の減少は、社用車の燃費が向上したことが要因として考えられる。

(外的要因) 目標を下回る結果となった。

CO2 排出量は仕事量に左右されるので、今後は目標の立てかたを改める必要があると考える。

(2) 廃棄物排出量

結果：目標は見込排出量から 6.91%の削減で、結果は目標から 7.63%の削減となった。

考察：目標は達成したが、無駄な廃棄は目につくため次年度も監視が必要である。

また、廃液類のカウントがマニフェストの管理の問題で含まれていなかったの
で、次年度は改める。

次年度は廃棄物の増加する見込みのある業務に注意して目標を設定する。

(3) 水資源投入量・総排水量

結果：目標は見込量の 3.85%削減で、結果は 6.60%の削減となった。

考察：見込値、目標に対して下回ることができた。要因として試作、受託件数が減少したことが考えられる。(実験室、別館の水資源投入量は削減されている)

(4) 化学物質使用量

・試作テスト、受託加工など仕様が決められており、当社自らの判断で削減することができないので、「化学物質使用量」でのデータ管理とする(前年継続)。

※1 使用した化学物質は顧客に返却など適切に処理されている。

(5) グリーン購入

・おもに事務用品を対象に人事総務課でグリーン購入対象商品を積極的に購入し、定着している。なお、今年度についてはリサイクル可能な作業着に全社的に更新した。

※2 本社では、詰め替え式の文房具への転換を 3 件、リサイクル出来る作業着の転換を 1 件実施した。大阪では、厚みの薄い紙への転換を 1 件実施した。

(6) 環境配慮製品

・環境配慮業務（エコアクション 2.1 委員会の形骸化された業務を手順化し、形骸化を防止するとともに作業レベルの平準化を図った。

※3 本社では、12 件、大阪、栃木では 1 件ずつ、環境に配慮した業務の手順書を作成した。

総括

仕事量や仕事内容の変動によって増減が安定しない。安定した効果を得られるように活動の標準化を進めたい。

5. 2015 年度活動計画と実績取組み内容

5-1. 本社の年度活動計画と実績取組み内容

環境負荷項目	今期削減目標	方策	実施内容	評価	真因把握により反省と対策
二酸化炭素 排出量	前年度比 1.2%削減	電気使用量の監視と分析	A：電気使用量実績の記録 B：電気使用量データの分析 C：まとめ報告	目標達成	見回り節電の効果はないかもしれないが、意識を教育するためには大事な活動である。 CO2チームの活動を手順書化したメンバーが変わっても引き継ぎができるであろう。
		排出量削減に関する取組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：見回り節電、啓発活動	目標達成	
廃棄物総 排出量	前年度比 5.2%削減	廃棄物排出量の監視と分析	A：廃棄物量実勢の記録 B：廃棄物量データの分析 C：まとめ報告	目標達成	今期も廃棄物の監視を行ったが、分別が疎かであるため、エコイスを引き続き行う。 今期は削減目標が未達であったためリサイクルに回せるルートの確立も考慮し、削減にむけた啓発を行う。
		排出量削減に関する取組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：分別業者開拓、エコイスによる分別ルール浸透	目標達成	
水資源 総排水量 ／投入量	前年度比 0.2%削減	生活・工業排水量の監視と分析	A：総排水量実勢の記録 B：総排水量データの分析 C：まとめ報告	目標達成	雨水タンクの効果もあり削減に成功した。今後もタンクの改造などを行い、節約文化を定着させていく。 水チームの活動を手順書化したメンバーが変わっても引き継ぎができるであろう。
		排出量削減に関する取組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：雨水利用による節水	目標達成	
化学物質	化学物質使用量の維持管理		A：継続的維持管理実施	目標達成	集計方法を効率化した。今後も改善していく。
グリーン 購入	環境に配慮した備品購入	環境に配慮した事務用品や生産用品の調査と導入	A：随時導入の監視	目標達成	ホワイトボードマーカー、スティックのり、マジック、詰め替え式にした。作業着はリサイクル可能なものにした。
環境配慮 自社製品	環境に配慮した自社製品	環境配慮作業の標準化推進	A：AES作成対象の抽出・指揮 B：AES作成・指揮 C：AES試行・運営・指揮 D：AES改善・指揮	目標達成	手順書のテンプレートを確立した。次年度も、引き続き行う。
EMS改定	年次計画	環境経営マニュアル改訂	A：マニュアル改定（全般） B：マニュアル改定（一部OH&Sとの整合性をとる） C：運営・見直し D：改善	目標達成	マニュアルを現実に即したものに變更。内部監査に関する内容も變更の必要がある。
教育訓練	年1回	全社フィードバック（年末納会時）	A：題材の調査・選定 B：納会実施	目標達成	11月の全社勉強会にて活動内容発表。
	月1回	谷津干潟清掃毎月のKS)	A：日程確認と参加の申し込み	目標達成	次年度も夏、冬も考慮し活動を行う。
	月1回	緑化協定の遵守（緑地の維持管理）	A：剪定 B：落ち葉拾い C：肥料散布 D：殺虫剤 E：草むしり F：除草剤	目標達成	KS委員会にて予定を組み定着している活動。無事に実施できた。
	月1回	新入社員向け環境教育	A：ガイドライン B：環境経営マニュアル C：活動内容説明 D：理解度チェック	未達	今年度実施できず。次年度に合わせて行います。
	月1回	EA21委員向け環境教育	A：EMS、ガイドライン説明 B：内部監査員教育	目標達成	委員メンバーに新人が多かったがEMSに関して良く教育ができた。

5-2. 大阪支店の年度活動計画と実績取り組み内容

<二酸化炭素排出削減>

- ① 机にスイッチ付の延長コードを設置し各自でこまめに電源OFFをする。
- ② 夏場にエアコンの室外機へよしずの設置。窓にもよしずを設置している。
- ③ ガソリン使用量（燃費）の確認。削減の啓発。

<廃棄物削減>

- ① 適切な分別を啓発している。

<水資源投入量削減>

- ① 洗濯のまとめ洗い。

5-3. 微粒子技術研究所の年度活動計画と実績取り組み内容

<二酸化炭素排出削減>

- ① エアコンと扇風機の併用による削減。→実施中・継続実施
- ② 朝礼前までの電気消灯（9：00より電気ON）、休み時間の電気消灯。

<廃棄物削減>

- ① ディスポカップ（消耗備品）のリユース化。→実施中・継続実施

<水資源投入量削減>

- ① 水の声かけ→実施中。洗濯物のまとめ洗いを始めました。

<その他>

- ① エコポスター設置。（啓発活動）→夏季用を実施済み

6. 次年度の取り組み内容

6-1. 2016 年度活動計画

環境負荷項目	今期削減目標	方策	実施内容
二酸化炭素 排出量	前年度比1.59%増加 予想値比4.02%削減	電気使用量の監視と分析	A：電気使用量実績の記録 B：電気使用量データの分析 C：まとめ報告
		排出量削減に関する取り組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：見回り節電、啓発活動
廃棄物総排出量	前年度比0.83%増加 予想値比2.89%	廃棄物排出量の監視と分析	A：廃棄物量実勢の記録 B：廃棄物量データの分析 C：まとめ報告
		排出量削減に関する取り組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：分別業者開拓、エコクイズによる分別ルール浸透
水資源 総排水量 ／投入量	前年度比3.20%増加 予想値比4.11%増加	生活・工業排水量の監視と分析	A：総排水量実勢の記録 B：総排水量データの分析 C：まとめ報告
		排出量削減に関する取り組み	A：AES作成対象の抽出 B：AES作成 C：AES試行・運営 D：AES改善 E：雨水利用による節水
大阪支店	前年度を維持	各項目の排出量の監視削減に関する取り組み	A：電気、廃棄物、水使用量実績の記録 B：データの分析 C：削減啓発活動 D：まとめ報告
微粒子技術研究所	前年度を維持	各項目の排出量の監視削減に関する取り組み	A：電気、廃棄物、水使用量実績の記録 B：データの分析 C：削減啓発活動 D：まとめ報告
化学 物質	化学物質使用量の維持管理		A：継続的維持管理実施
グリーン購入	環境に配慮した 備品購入	環境に配慮した事務用品や 生産用品の調査と導入	A：随時導入の監視
環境配慮自社製品	環境に配慮した 自社製品	環境配慮作業の標準化推進	A：AES作成対象の抽出・指揮 B：AES作成・指揮 C：AES試行・運営・指揮 D：AES改善・指揮
EMS改定	年次計画	環境経営マニュアル改訂	A：マニュアル改定（全般） B：マニュアル改定 C：運営・見直し D：改善
教育訓練	年1回	全社フィードバック （年末納会時）	A：題材の調査・選定 B：納会実施
	月1回	谷津干潟清掃 （毎月のKS）	A：日程確認と参加の申し込み
	月1回	緑化協定の遵守 （緑地の維持管理）	A：剪定 B：落ち葉拾い C：肥料散布 D：殺虫 剤 E：草むしり F：除草剤 ※予定はKS委員会作成のKSの予定に依存する
	月1回	新入社員向け環境教育	A：ガイドライン B：環境経営マニュアル C：活動内容説明 D：環境啓発活動
	月1回	EA21委員向け環境教育	A：EMS、ガイドライン説明 B：内部監査員教育

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認

No.	法規制等の名称	該当する設備・項目	適用の有無	許可・届出・報告・資格等
1	水質汚濁防止法	排水水の汚染状態	○	千葉県知事への届出事項の確認
2	下水道法	公共下水道	○	習志野市下水道課への届出事項の確認
3	騒音規正法	特定施設：コンプレッサー1台 冷凍機(チラー)2台 送風機1台	○	習志野市長への届出事項 (申請中)
4	振動規正法	特定施設：コンプレッサー1台 冷凍機(チラー)2台 送風機1台	○	習志野市長への届出事項 (申請中)
5	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	リサイクルゴミ： 一般紙・ダンボール・新聞紙・ 鉄・ステンレス・スチール缶・ アルミ缶・ビン・ペットボトル 産業廃棄物： ゴム・ビニール・プラスチック ・銅・非鉄金属・アルミ缶他 廃油： 潤滑油・洗い油	○	リサイクルゴミ：リサイクル業者 産業廃棄物：産業廃棄物業者 廃油：委託業者 分別収集の強化
6	特定家庭用機器再商品化法	特定家庭用機器の処理について	○	
7	自動車NOx-PM法	軽油を燃料とする普通トラック (400番台ナンバー) 所有	○	車検証に排出基準に適合の記載有り
8	フロン排出抑制法	「業務用エアコンの定期点検」	○	—
9	消防法	「危険物の保管管理」 「危険物貯蔵庫の設置」 「少量危険物の取扱の届出」	○	習志野消防本部へ届出済
10	労働安全衛生法	「安全衛生管理者選任届」 「有機溶剤中毒防止規則」 「特定化学物質障害予防規則」	○	船橋労働基準監督署へ届出済
11	毒物及び劇物取締法	「試薬類保管施設施設」	○	—

上記の環境関連法規について違反がないことを確認した。

また、外部からの訴訟・苦情もなかった。

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

<15年度二酸化炭素、廃棄物、水排出量の実績値と分析及び考察>

- ①Co2 排出量は当初の目標を若干超える値となった。
- ②廃棄物の量は目標に対し大幅に上がった。
※廃棄物のカウント方法を変えたことが要因ではあるが、使い捨ての文化は目立つ。
- ③水資源投入量は目標を下回る値となった。
※受託加工、実験の件数の減少が要因となっている。
今後もエコアクション21委員会を中心に活動に励む。

<16年度の環境目標、環境活動計画書の内容確認>

- ① 環境目標は、その年の排出量の見込を予測し、その見込値を基準に削減量を設定する。
(昨年度から継続)
- ② 今後、受託加工の件数を増加させる計画のため Co2 排出量、廃棄物量、水資源投入量の増加が見込まれる。全社的に削減協力を促す為、社員一人当たりでの目標を目安値として公表する。
(昨年度から継続)
- ③ 環境配慮自社製品の一環として環境に配慮したサービスを整理しマニュアル化する。
(昨年度から継続)
- ④ 産業廃棄物に対しては適切に再資源化を実施してくれる業者の開拓を行い焼却処分を減らす。(昨年度から継続)
- ⑤ 改定したEMSの社内への浸透。
- ⑥ 環境リスクに重点を置いた教育実施予定。

<代表者のコメント>

当社は経営理念として「世界一の微粒子技術と感動サービスでお客様のものづくりビジョンを実現することにより、資源の有効活用と人類の発展に貢献し、社員が誇りと満足を得る企業となる」と謳い、環境の保全は会社設立の目的であり私共の使命であると位置付けております。

私共は環境との関わりを下記の3点でとらえ、個人と組織それぞれで環境活動を実践しております。

1. 私共自身が仕事や生活をする中で生じる環境負荷（例、電力・水資源・廃棄物など）を低減させること
2. 当社の機械が生産され、お客様にご利用いただき、やがて廃棄される、一連の過程から生じる環境負荷（例、機械の運転動力など）を低減させること
3. 当社製の機械が普及して、これを利用してお客様が生産する素材や製品（例、電気自動車・太陽光パネルなど）により、環境負荷を低減させること

地球温暖化や異常気象についての国際的な関心や対策が加速する中で、当社としてもさらに積極的な環境経営を推進し、社会の一員としての責務を果たして参ります。

9. その他

9-1. 障害者施設への寄付

当社が実施している分別活動のうち、古紙回収分はリサイクル業者にて換金して頂き、その代金は、障害者施設へ寄付している。直近3カ年の寄付金額は以下の通りである。

年度	金額	新聞紙	雑誌	段ボール
2013年度	58,784 円	500 kg	4,320 kg	3,292 kg
2014年度	60,760 円	700 kg	4,020 kg	3,560 kg
2015年度	63,162 円	590 kg	3,646 kg	4,450 kg

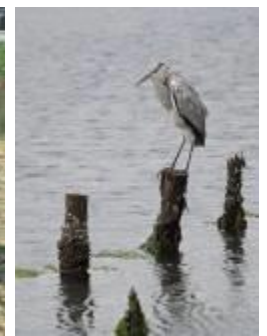


9-2. 世界の子供にワクチンの提供

環境保全活動の一貫としてエコキャップ活動にも参加し、従業員からも多大な協力を得ることができ、約102kg＝約51人分のワクチンを届けることが出来た。



9-3. 谷津干潟清掃 池の草刈りを中心に清掃ボランティアを行った。



9-4. 表彰認証

- ・九都県市のきらりと光る産業技術 表彰
- ・平成27年度 EA21 認証・登録10年継続記念



10、取扱製品

～乾式および湿式ビーズミルを利用したエコ粉砕～

連続式 乾式ビーズミル

ドライスター® 特許



大流量循環運転専用 スタンダードミル

スターミル® **LMZ**



<ドライスター>

100～150 μ m 程度の原料を1パスでシングルミクロンまで粉砕する連続式 乾式ビーズミル。エネルギーコストも他の粉砕機（ボールミルやジェットミル）と比較すると極小に抑え、粒度コントロールも容易なため、効率よくシャープな分布を得ることができます。

<スターミル LMZ>

大流量循環運転専用のビーズミルで、特許の遠心分離スクリーンにより、ビーズがスクリーンに引き起こす様々な問題を解決。小型機から大型機までスケールアップが可能です。

<エコ粉砕>

また、湿式ビーズミルとの組合せにより、湿式のみでの処理と比較して、省エネでの処理（エコ粉砕）とコンタミネーションを抑制した処理が可能です。

以上